

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立みつば幼稚園)

1 平成26年度 重点評価項目

1. 遊びの充実と学び(幼稚園での学び) 2. 豊かな心の育成(感動体験と自己発揮) 3. 健やかな体の育成(生活習慣の確立と健康な体づくり)

2 2回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価日	平成27年3月6日	評価日	平成27年3月19日
						評価者・組織	評価委員会	評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・ 各種指標	アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学 校評議員による改 善に向けた支援策
1	確 かな 学力	言語活動 豊かな経験や体 験	月刊絵本と絵本室の活 用 子どもが主体的に遊ぶ 環境づくり	・ 絵本室の環境と絵 本貸し出し・月刊絵 本を親子で楽しんでい ・子どもが心を動かし様々 な発見ができる環境・子 ども一人一人の援助	AB評価は80%以上 豊かな体験や経験は前期よりB評 価が減りA評価が上がった。他の 項目ではC評価もある。	⇒ 月刊絵本・絵本室の活用 は家庭での親子の触れ合 いにもつながっている。引 き続き、絵本室の環境を整 える。 幼稚園で自ら遊ぶ姿に気 付きや発見があることに評 価をいただいている。	⇒ 絵本室の活用は、絵本ボ ランティアの協力が大き い。幼稚園の教員ではな い大人とのかかわりや読 み聞かせなど、絵本室の ひとときがこどもにとって有 意義な時間になっている。 次年度は、元の位置に絵 本室が移動する。環境を 考えたい。	⇒ 今年度は、絵本ボラン ティアの幅が広がり参加 人数が増えた。絵本室が より子どもにとって身近 になるよう、次年度のボ ランティアの募集に向け ても早い時期から動いた 方がよい。	⇒ PTAが中心となり、在園 児の保護者に、絵本ボ ランティアの方たちの仕事 内容や、子どもたちにか かわっている様子など 知ってもらうように、見 学会を設ける。
2	豊 かな 心	豊かな感動体験 自己発揮と他者 への理解	造形活動や伝統文化に 心を動かす経験 個々の心の読み取り 身近な人への挨拶	・美しさや、心地よい響き に触れる生活・子ども 一人一人の援助 ・子ども良いところを認 め、励まし・身近な人と 挨拶を交わしかかわる。	伝統文化行事のかか わりは、ごくわずかが評 価が下がった。 個々の心の読み取りは、 ごくわずかにA評価が下 がった。挨拶は良い評価	⇒ 前期に引き続き、様々な感 情体験をすることが心の育 ちにつながる保護者が 考えている結果が出た。 子ども一人一人の気持ち に寄り添い、幼児理解に努 めたい。	⇒ 幼稚園の行事の中での子 どもの育ちを丁寧に見取 り、次の生活にステップ アップするよう環境を整 えていく。また、教師の言葉 がけが心を動かすもので ある。研修を積んでいき たい。	⇒ 伝統文化へのかかわり は地域行事としても行っ ている。夏祭り、餅つき、 1月のお茶会の体験(5歳 児)などがある。親子で 参加してほしい。	⇒ 夏祭り(地域行事)や餅 つき(園行事)等の行事 は、地域と幼稚園のつな がりが続いている。保護 者や子どもたちにとって 楽しい場所になるよう今 後も学校運営協議会が 一緒に取り組んでいき たい。
3	健 や かな 体	基本的生活習慣 の確立 園庭・広場の活用 と体力づくり	早寝・早起き・朝ごはん の呼びかけ 運動遊びを通して調 整力を養う	規則正しい生活ができ ているか 個々の動きと心の動き 日々の保育の振り返り	BC評価が減り、A評価 が増えた。 体力がつき、年中・年長は 縄跳び等も挑戦している。	⇒ BC評価が減りA評価が増 えた。家庭や園での生活 習慣の自立に向けた取組 が子どもの育ちにつなが っていることがうかがえる。	⇒ 発達年齢に応じた環境の設 え方や援助を続ける。生活習慣 の自立に向け、今後も保護者 との連携を続けていく。安心 安全に遊べる幼稚園の体制や 援助について考える。	⇒ 生活習慣の自立につい ては、保護者もできるよ うになることを望んでい る。入園を機に身につい ていくよう援助をしてほ しい。	⇒ 保護者に子どもの様子を 伝えながら、生活習慣を 身に付けられるよう進め ていってほしい。
4	独 自 の 取 組	地域や校種間連 携 子育て支援 食育の充実	特養訪問 小・中・地域との連携 教育相談 預かり保育 西賀茂農園の取組 一人一鉢 パンランチ	地域や校種間連携は、 子どもの育ちにつな がっているか 教育相談や預かり保育 は子育ての支援になっ ているか 栽培活動(西賀茂農園 を含む)は食育につな がっているか	保幼小中連携では、B評 価が減りA評価が増え ている。 幼稚園の取組を評価してもらっ ている。預かり保育では、やや低い 評価がある。 ほぼAB評価であり高い 評価をもらっている。	⇒ 地域や校種間連携の積み 上げは、子どもの姿に表 れた。特に保幼小中連携 が大事であることについ ては保護者の意識が高ま った。 栽培活動や、食育の充実 も同様である。	⇒ 継続が大切である。校種 間連携や食育について は、年長児が中心である が、他学年の子ども達 は、年長児の姿をよく見てお り、期待感をもって進級 する。教育計画の中にし っかりと位置づけ、衛生 面に十分配慮しながら、 より計画を密にして取 組む。	⇒ 地域・小・中の連携につ いても良い評価をもらっ ているのは、学校運営協 議会の取組が保護者に 支持されている。今年 度は、西陣中央小学校 との連携が、教育課程 の中に位置付けられた ことは大きい。	⇒ 運営協議会の取組の一 つとして、小中連携を 重視している。西陣中 央小学校とも連携がス タートしたことは大き な第一歩である。今 後も上京中学校、新 町・西陣中央小学校 との連携を継続でき るよう力を注ぎたい。

4 総括・次年度の課題

幼児理解と子どもの育ちに応じた環境の設えなど、教師が日々の生活を大切にしてきたことが後半以降の子どもたちの育ちにつながった。園独自の取組は、学校運営協議会として子どもの育ちを支える大きな取組の部分でもある。子どもたちは園内外の身近な環境だけでなく、小・中学校、西賀茂農園、地域の諸行事の環境の中で心を動かし、人との出会いの中で他の人の思いを感じられる子どもに育ちつつある。年長児は感謝の気持ちが芽生えてきている。今後もみつば幼稚園ならではの教育を続けていきたい。次年度は20周年を迎えるので、教職員皆で地域とつながる良さや、学校運営協議会と同じ思いで取組む中で、みつば幼稚園の将来についても話し込んでいきたい。